



「誰にも優しい学校」を目指して

校長 三浦 利信

令和5年度の羽村一中は「誰にも優しい学校」を目指しています。3年間のコロナ禍で人間関係が希薄化したと言われていています。ウイズコロナ（アフターコロナ）の時代にあって、学校が求められていることの重要な役割の1つに、「コミュニケーションの活性化」があると思います。「コミュニケーション（関係性）」を活性化する基盤は、他者受容と自己承認にあると考えます。そのために、「誰にも優しい学校」、「互いに認め合える学校」を目指します。

さて、「優しさ」と一言で言いますが、AKB48グループや坂道シリーズのプロデューサーとしてほとんどの楽曲の作詞をしている作詞家の秋元康さんは、「本当の優しさとは、自分から与えるのではなく、相手が求めてきたときに、さりげなく示すもの。あるいは、他人を許すこと。」と話しています。また、「優しさ」をもつ人には、①相手の気持ちを考えられる、②話をしっかりと聞く、③人の幸せを喜ぶ余裕がある、④気分や相手により態度を変えない、⑤思いやりのアドバイスができる、⑥見返りをもとめないなどの特徴があるとも言われています。

優しさは、相手のことを思いやる気持ちからスタートします。東京都教育委員会では、6月を「ふれあい月間」として、全ての学校が「いじめ問題」などに重点的に取り組むことにしています。この機会に、一人一人が自分の行動を見直し、思いやりのある学校生活を送ってほしいと思います。

コミュニティ・スクールについて

羽村市教育委員会では、令和5年4月から、地域住民や保護者の学校への参画をすすめ、地域に根差した特色ある学校づくりをさらに推進するため、市立学校にコミュニティ・スクールを順次導入していきます。羽村一中と栄小の2校が令和5年4月から、残りの8校が令和6年4月にコミュニティ・スクールとなります。

羽村市のコミュニティ・スクールの考え方「地域と共にある学校」の下、学校を中核として、「地域みんなが笑顔で夢のある教育を語り、大人も子どもも成長し、自分の経験や知識・技能を生かしていく社会」を目指します。6名で構成される、コミュニティ・スクール委員会で、学校の経営方針や教育課題、学校評価などを議論し、学校運営への意見をいただきます。

令和5年度の羽村一中コミュニティ・スクール委員会の構成は次のとおりです。

委員長	淵上 勝則さん	元市内中学校長	石川 千寿さん	地域住民	社会教育委員
副委員長	柴田 満行さん	地域住民	元市職員	山田 祥絵さん	元PTA役員
	指田 光春さん	PTA会長	三浦 利信	羽村一中校長	

第1回のコミュニティ・スクール委員会を6月8日（木）に開催しました。委員会の内容や次回の予定は、学校ホームページ等でお知らせしていきます。